



リトルハウス 小豆 A6

西田春彦



リトルプレス小豆A6

茜町春彦

目次：

- 英訳昔話「御辛勞の池」
- 仮説エッセイ「あらたまの」
- 新作万葉集「第3頁」
- 断簡零墨「3歳の記憶」
- 推理エッセイ「唐辛」
- イラストレーション「毛皮をまとうエレネ・フルマン」および「快樂の園」

前書き

英訳昔話「御辛勞の池」：

柳田国男著『日本の昔話』の中の一編です。

粗筋としては『村人が総出で古池の水を浚って魚を取ろうとしたが、水の中から見知らぬ人が現れて一言喋ったら、池の水は元に戻ってしまった』と云う話です。

イラストレーションは4枚です。本文は漢文書き下し文に模して書き直しております。英訳も行いました。

仮説エッセイ「あらたまの」：

万葉歌の枕詞「荒玉之」の意味を考えてみます。

ただし上代特殊仮名遣は間違いであると仮定して居ります。

新作万葉集「第3頁」：

現代の出来事をアイデアの基にして、万葉仮名で歌を3首詠みました。

人物・団体等は全て架空のものです。

断簡零墨「3歳の記憶」：

一番古い記憶を思い出して記しました。

推理エッセイ「唐辛」：

種田山頭火の1句「死をひしと唐辛まつかな」の意味を推理してみます。

イラストレーション「毛皮をまとうエレネ・フルマン」および「快樂の園（部分）」：

Pieter Paul Rubence(1557-1640)の油彩画の模写、および、Hieronymus Bosch(about 1450-1516)の油彩画の模写（部分）です。



英訳昔話「御辛勞の池」

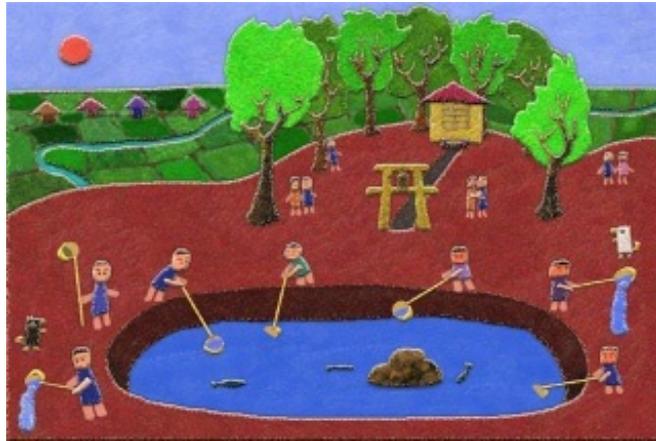
絵・文・訳：茜町春彦

原作：柳田国男

A Picture Book : "The Take-Care pond"

Illustrated and translated by : Akanemachi Haruhiko

Original author : Yanagida Kunio



概要： 絵本です。原作は日本の昔話（新潮文庫）の中の一編です。

日本の昔話： 著者は柳田国男（1962年没）です。柳田国男氏自身が述べているように『日本の昔話』は全国から集めた話なので、創作性の観点から著作権は元々発生していないと思いますが、仮に著作権が発生していたとしても柳田国男氏の没後50年を経過していますので既に消滅しています。（著作権：消滅）



むかし肥後国の八幡村で、御社の近くの古池の水をさらえて、池の魚を捕ろうとしたことがありました。

Long long ago, people of Yawata village of Higo province tried to catch the fish of the old pond near the village shrine.

So, they were drawing the water out of the pond.



八月一日の日であったといいますが、朝から村の人たちが残らず集まって、せっせと水を汲み上げましたけれども、いつまで経っても換え乾すことが出来ません。

This was on 1st day of August.

All the village people came together in the morning.

And they earnestly drew water from the pond.

A long time passed but they couldn't drain water off.



そのうちに夕方になって、もう大分底に近くなったように思っていると、だしぬけに見たことのない人が一人、その水の中から出てきました。

And then, the evening came.

The people thought that the water surface was near the bottom.

Suddenly, a strange person appeared from the water.



そうしてピヨコンと御辞儀をして、皆様御辛勞と言ったかと思うと、忽ち何処かへ消えてしま
って、池の水はすぐに又もとの通り、池に一杯になってしまいましたそうです。

それからこの池の名を御辛勞の池と言って、誰も魚を捕ろうとする者がいなくなりました。

(肥後玉名郡)

Then, he bowed and said "All of you! Take care!"

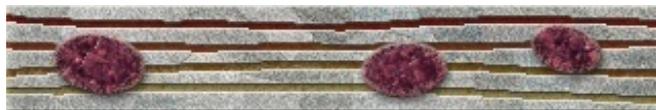
And he suddenly disappeared somewhere.

Immediately, the pond filled with water as it was before.

After that, this pond was called the Take-Care pond.

And nobody tried to catch fish in the pond.

(Higo province Tamana county)



仮説エッセイ「あらたまの」

著者：茜町春彦

概要：

万葉歌の枕詞「荒玉之」の意味を考えてみます。

ただし上代特殊仮名遣は間違いであると仮定して居ります。

仮説エッセイ「あらたまの」

「荒玉」とは「改まる」であると思います。そして「玉」は、月の比喩を示すと思います。従って、枕詞「荒玉之」とは「改まった月」の事で「新月（朔）」の意味であると解釈します。更に又、新月は見えない黒い月であると考えれば、通常「ぬばたま」と訓じている「烏玉」も「黒玉」も「あらたま」と訓じるべきだと考えます。

纏めますと、「荒玉」と「烏玉」と「黒玉」は「あらたま」と訓じて「新月」の意味に解釈すべきだと考えます。

例として5首、枕詞「あらたまの」が詠まれている歌を示します。

- 638 直一夜 隔之可良尔 荒玉之 月歟経去跡 心遮
- 1620 荒玉之 月立左右二 来不益者 夢西見乍思曾 吾勢思
- 169 茜刺 日者雖照有 烏玉之 夜渡月之隠良久 惜毛
- 925 烏玉之 夜乃深去者 久木生留 清河原尔 知鳥数鳴
- 1101 黒玉之 夜去来者 卷向之川音高之母 荒足鴨疾

参考までに現代語に意識してみます。

- 638 唯一晩、離れたら、新月で、月が還り去ると、心は遮られた
- 1620 新月の、朔までに、来なければ、夢に見て思うことでしょうか、私の夫よ（吾背子）
- 169 朝日は照ると雖も、新月では、夜渡る月は隠れている、残念だなあ
- 925 新月の、夜が深まれば、久木生える、清き河原に、千鳥が数羽鳴く
- 1101 新月の、夜が来れば、卷向の川音が高いのも、嵐かもと

（了）



新作万葉集「第3頁」

著者：茜町春彦

概要：

現代の出来事をアイデアの基にして、万葉仮名で歌を3首詠みました。

人物・団体等は全て架空のものです。

「長歌」

或經濟評論家詠、歌1首

- 財夢省雅安部尾綾釣手 九六田尼脱法魔外乃日本銀行券尾印刷佐世手 海女下先貴業尼薔薇舞手 穀民總生産雅丸出上昇指多過乃如見世掛手 社会福止陀介護陀何陀神田言訳指手 省費税尾八分尼須留目的波 公夢員乃膨茄子尾確保須留為也

「短歌」

或大臣詠、歌1首

- 倍米阿米乃美久寿

「反歌」

或俳優詠、歌1首

- 矢良礼多良 長井棒乃先尼短劍尾津計多武器返須 壳雅絵詩陀



断簡零墨「3歳の記憶」

著者：茜町春彦

概要：

一番古い記憶を思い出して記しました。

断簡零墨「3歳の記憶」

床には、すのこがある。天井からは電球のオレンジの灯り。正面には木の棚がある。右側には五右衛門風呂。誰かに後ろから抱きかかえられて湯船に入っている。頭の上から声が聞こえる。母の声だろうか？それから先は、もう覚えていない。



推理エッセイ「唐辛」

著者：茜町春彦

概要：

種田山頭火の1句「死をひしと唐辛まつかな」の意味を推理してみます。

推理エッセイ「唐辛」

- 死をひしと唐辛まつかな

普通に解釈すると 死をシッカリと、（疾うから）早い時期から、待つかな と云うところでしょうか。英語に翻訳すれば、

- I am soundly preparing and waiting for my death from the early time.

と云うようなところだと思います。しかし「唐辛」と云う文字の使用に注目すると食料品を詠み込んだ句になっていると思えてきます。漢字で書けば、

- 塩、菱（の実）と、唐辛（子）、松（の実）かな

と云う具合で、英訳すれば、

- There are salt, water chestnuts, red pepper and pine seeds.

と云う具合でしょうか。この場合は、例えば台所で酒の肴を探したところ、塩と菱の実と唐辛子と松の実ぐらいしかない状況に於いて、常日頃から山頭火が考えていた死への準備をテーマに重ねて詠み込んだ句になります。

以上より、この句は食料品を洒落て詠み込んだ句であると推理します。



イラストレーション「毛皮をまとうエレネ・フルマン」および「快樂の園（部分）」

制作：茜町春彦

原作者：ルーベンス、および、ボス

概要：

Pieter Paul Rubence(1557-1640)の油彩画の模写、および、Hieronymus Bosch(about 1450-1516)の油彩画の模写（部分）です。





後書き

参考文献：

日本の昔話：平成17年10月25日36刷

（柳田国男著、新潮文庫）

漢文法基礎 本当にわかる漢文入門：2010年12月13日第4刷発行

（加地伸行著、講談社学術文庫）

ジーニアス英和辞典〈改訂版〉2色刷り：1994年4月1日改訂版初版発行

（株式会社大修館書店）

新コンサイス和英辞典〈革装〉第3刷：昭和50年9月15日第1刷発行

（株式会社三省堂）

実例英文法〈第4版〉：昭和63年6月第1刷発行

（AJ.トムソン・AV.マーティネット共著、江川泰一郎訳、オックスフォード大学出版局）

Longman Dictionary of American English:First printing 1983

(Longman Inc.)

古語大辞典：昭和60年1月21日第1版第6刷発行

（中田祝夫・和田利政・北原保雄編、株式会社小学館）

古代国語の音韻に就いて 他二篇：2011年11月10日第32刷発行

（橋本進吉著、岩波文庫）

レトリックのすすめ：2009年9月1日初版第2刷

（野内良三著、株式会社大修館書店）

いろはうた 日本語史へのいざない：2009年3月10日第1刷発行

（小松英雄、講談社学術文庫）

かな：1981年11月20日第15刷発行

（小松茂美、岩波新書）

新選万葉集抄新装版：平成25年1月30日新装版第2刷発行

（小野寛著、有限会社笠間書院）

萬葉集 一 新日本古典文学大系1：1999年5月20日第1刷発行

（佐竹昭広、山田英雄、工藤力男、大谷雅夫、山崎福之校注、株式会社岩波書店）

巨匠に教わる絵画の見かた：1996年10月15日第1版発行

（視覚デザイン研究所編、株式会社視覚デザイン研究所）

鑑賞のための西洋美術史入門：平成18年9月1日第1版

（早坂優子著、株式会社視覚デザイン研究所）

ビジュアル選書「快樂の園」：2012年8月28日第1刷発行

（神原正明編著、株式会社新人物往来社）

CG画像：

次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

ArtRage 3 Studio Pro（アンビエント社）

Photoshop Elements 10（アドビシステムズ株式会社）

著者：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。作品が社会の進歩に多少なりとも寄与することを願いながら、日々制作を行なっています。

その他：

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

2013年10月23日発行

2014年3月4日改訂

2019年6月28日改訂2版

リトルプレス小豆A6

<http://p.booklog.jp/book/78249>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/78249>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/78249>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ